

## 引用文献

- 千葉聡子. (2019). 夏休みに侵入する日常としての学校: 理想の夏休みの何を誰が守るのか. 教育学部紀要, 53, 237-251.
- 古見, 文一, 小山内, 樋口, & 津田裕之. (2019.3). はじめての心理学概論: 公認心理師への第一歩. ナカニシヤ出版.
- 学校基本調査.(2022).(検索日:2022年12月12日)
- 一前春子, 秋田喜代美, 天野美和子.(2021). マルチステークホルダーの視座からみる保幼小連携接続. 風間書房.
- 一前春子, 秋田喜代美, & 天野美和子. (2018). 保幼小連携の取り組みの効果に対する保護者の視点 保護者は連携をどのような取り組みととらえているのか. 国際幼児教育研究, 25, 91-104.
- 韓昌完. (2017). 教育分野における成果評価の観点に基づいた QOL (Quality of Life) の再定義 (Doctoral dissertation, 琉球大学).
- 小林小夜子. (2003). 就学前集団保育から小学校への移行における適応に関する発達心理学的研究 -研究の視点と課題. 広島大学大学院教育学研究科紀要. 第一部、開発関連領域= Bulletin of the Graduate School of Education, Hiroshima University. Part. 1, Learning and curriculum development、(52), 65-71.
- 小林祐紀, 村井万寿夫, 亀井俊智, 猪田良介, & 北川坦. (2021). デジタル連絡帳アプリの開発における教員及び保護者による評価. AI 時代の教育論文誌, 4, 37-42.
- 国会会議録検索システム. 第 211 回国会参議院予算委員会第 8 号令和 5 年 3 月 13 日 (最終閲覧日:2023 年 4 月 22 日)  
<https://kokkai.ndl.go.jp/#/detail?minId=121115261X00820230313&current=1>
- 渡邊恵子, 田口重憲, & 堀越紀香. (2017). 幼小接続期の育ち・学びと幼児教育の質に関する研究<報告書>. 国立教育政策研究所.
- 古荘純一, 柴田玲子, 根本芳, & 松崎くみ子. (2014). 子どもの QOL 尺度その理解と活用 心身の健康を評価する日本語版 KINDLR.
- 厚生労働省.(2008).保育所保育指針.
- 眞榮城和美, & 酒井厚. (2018). 就学移行期における子どもの QOL の発達と関連要因の検討: 親の自尊感情・養育態度との関連を中心として (特集 子ども期の

Quality of Life (QOL)). チャイルド・サイエンス= Child science: 子ども学, 16, 19-24.

文部科学省. (2008). 小学校学習指導要領.

【みんなで考えよう】「小1の壁」でつらかったことや不安はありますか？ 何をきっかけに乗り越えましたか？ Yahoo! ニュース.  
<https://news.yahoo.co.jp/articles/6b35bac1e7ab9e4309b67cd8c9ec8a16306b56d6> (検索日:2023年4月22日)

文部科学省.(2022).架け橋プログラム.

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/youchien/1258019\\_00002.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1258019_00002.htm) (検索日:2022年12月12日)

盛真由美,&尾崎康子.(2008).幼稚園から小学校への移行における適応過程に関する縦断的研究.富山大学人間発達科学部紀要, 2 (2), 175-182, 2008-03.

椋田善之, & 鈴木正敏. (2011). 幼児の期待と不安から見る入学後の学校生活: 子どもへのインタビュー調査と絵画から. 乳幼児教育学研究/乳幼児教育学研究編集委員会編,(20),59-69.

椋田善之, & 鈴木正敏. (2009). 就学前後の子どもが感じる幼少の違いに関する研究-5歳と1年生時点での子どものインタビューを通して. 学校教育学研究, 21, 23-31.

椋田善之. (2013). 幼稚園から小学校の移行期における保護者の子どもへの期待と不安の変容過程. 東京大学大学院教育学研究科紀要, 53.

村上純子. (2021). 子どもと家族の QOL 研究: 過去 10 年の QOL 尺度を用いた研究の現状. 聖学院大学論叢, 33(第 1・2 号合併), 53-63.

西田季里, 眞田英弥, 浜名真以, 野澤祥子, & 遠藤利彦. (2023). 保幼小接続を意識した園・家庭での取り組み 質問紙調査における自由記述回答からの整理. 国際幼児教育研究, 30, 1-16.

お茶の水女子大学附属幼稚園小学校中学校子ども発達教育研究センター『「接続期」をつくる一幼・小・中をつなぐ教師と子どもの協働』東洋館出版、2008年.

OECD. (2001). Starting strong. Early childhood education and care, Paris: OECD Publishing, 2001.

OECD. (2017). Starting Strong, V. Transitions from Early Childhood Education and Care to Primary Education.

- 大谷尚. (2011). SCAT: Steps for Coding and Theorization. 感性工学, 10, 155-160.
- 大谷尚. (2008). 4 ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCAT の提案—着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き—. 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要. 教育科学, 54(2), 27-44.
- 柴田玲子. (2013). 子どもの QOL に関する母子の報告に母親自身の QOL が及ぼす影響. 人間環境学研究, 11(2), 67-73.
- 新保真紀子. (2010). 小 1 プロブレムの予防とスタートカリキュラム: 就学前教育と学校教育の学びをつなぐ.
- 新保真紀子. (2001). 『小 1 プロブレム』に挑戦する」明治図書.
- 菅原ますみ編. (2012). 子ども期の養育環境と QOL. 金子書房 .
- スリール株式会社. (2023). 『小 1 の壁』実態白書. ～全国の小学 1～3 年生の子どもをもつ親 200 名のアンケート調査～.
- 高橋千香子. (2023). DW ウィニコットの情緒発達理論に関する一考察 —保育における養護との関連に着目して—. 奈良学園大学紀要, 15, 97-105.
- 高久玲音. (2019). 小学校一年生の壁と日本の放課後保育. 日本労働研究雑誌, 61(6), 68-78.
- 田崎美弥子, & 中根允文. (2007). WHO QOL26 手引改訂版.
- 照屋晴奈, 小原愛子, 矢野夏樹, 権偕珍, & 韓昌完. (2021). 「子どものための学校 QOL 尺度」試案における信頼性・妥当性の検討—沖縄県内中学校のデータを中心に. Total Rehabilitation Research, 9, 11-19.
- 藤間公太. (2014). 子育ての脱家族化論の問題構制: 「支援」と「代替」をめぐって. 慶応義塾大学大学院社会学研究科紀要: 社会学心理学教育学: 人間と社会の探究, 77, 1-17.
- 東京都. (2009). 「公立小学校第 1 学年の児童の実態調査」. 平成 23 年第 5 回東京都教育委員会定例会会議録.
- 土沢薫. (2020). 小学校入学後の登校渋りへのスクールカウンセラーの早期介入. 子ども生活学研究, 11.
- 普光院亜紀. (2023 年 2 月 1 日). 「退職するか悩む」「もはや壁ではなく山脈」——共働き家庭に立ちほだかる「小 1 の壁」のなぜ Yahoo! ニュース. <https://news.yahoo.co.jp/special/balancing-work-and-parental-duties/> (検索

日:2023年4月22日)

善野八千子.(2012). 幼小接続期におけるカリキュラム開発 3— 入学後の子どもの戸惑いに着目して—. 紀要,43,73-85.